

大豊町合併60周年



昭和30年3月31日に4村が合併し、人口22,386人(国勢調査)の大豊村が誕生しました。

先月号では、昭和30年代のできごとを掲載しましたが、今回は、現在の町制施行となるまでの昭和40年代前半の大豊村のできごとについて振り返ります。

昭和42年7月9日 合併以来最大の集中豪雨

西日本一帯に大きな災害をもたらしたこの集中豪雨では、当時の古老も経験がないというほどのすさまじさでした。とりわけ大杉地区を中心として至るところに無惨なツメあとを残し、推定10億円近い被害になりましたが、幸いにも人的被害はありませんでした。



小川



日浦

昭和43年5月 大豊村役場庁舎 (現在の庁舎) 完成

昭和31年に最初の大豊村役場が建設(先月号で掲載)されましたが、その後の急激な社会情勢の変化により、昭和43年5月8日に新庁舎が完成しました。

当日の落成式は、約400人が参加し、盛大に行われました。この庁舎は、昭和に換算すると昭和90年にあたる現在も引き続き使用し、業務を行っています。



想い出を 第2回 たずねて



昭和40年頃の柚木スキー場

柚木スキー場は、昭和11年に高知県唯一のスキー場として、当時の豊永駅長だった山本首次郎氏の指導により誕生しました。昭和45年に終止符をうつまで、30年以上の長い間、県内外からたくさんのスキーヤー達で賑わいました。

〈8月号は、昭和40年代後半のできごとについて掲載の予定です。〉

大豊町民 防災

塾 第7回 台風災害と備え

最近ではあまり耳にしなくなりましたが、四国は九州南部などと並んで『台風銀座』と呼ばれています。

気象庁では昭和26年から正式に台風の記録を整理していますが、昨年までの64年間で日本に上陸した台風は182個、そのうち25個が高知県に上陸しており、鹿児島県に次いで2番目に多くなっています。

台風災害のうち、大豊町で最も警戒しなければならぬのが大雨による土砂災害と河川の増水による洪水、浸水です。過去にも多くの災害が発生しています。

高知県は台風による大雨の降り方にも特徴があります。ひとつは非常に激しい雨が半日から一日、あるいはそれ以上の長い時間降り続くこと、もうひとつは地形の影響などにより同じような場所に降り続くことです。このため、高知県で台風による大雨が降ると、降水量が極めて多くなる傾向があり、それが大きな災害につながります。

台風による大雨で注意しなければならないポイントは二つです。

ポイント① 大雨は台風の大きさ、強さと関係ない

風は強い台風ほど激しい風を伴い、大きな台風では広い範囲で強い風が吹きますが、台風による雨は台風の強さや大きさにあまり関係なく、小さい台風や弱い台風でも多くの雨が降って大きな災害につながる場合があります。

気象衛星ひまわりの雲の画像で台風の雲の形が小さなものであっても、その周辺を回って流れ込んでくる大雨のもととなる湿った空気は画像で見えることはできません。湿った空気が土佐湾から四国山地にかかる発達した積乱雲となって大雨をもたらします。大雨が降り出す前の時点では雲の画像で前兆がはっきり見えなくても、最近では数値予報などによってある程度予測することができるようになりました。場所や

時間、量を早い段階からピンポイントで精度良く予測することはなかなか困難ですが、事前に台風や大雨に関する情報としてお知らせすることはできるようになります。台風の姿形にだまされることなく、気象情報に注意して大雨に備えてください。

ポイント② 台風が遠く離れていても大雨に注意

昨年の台風12号は、高知県は台風の中心から約800kmも離れていましたが、香美市繁藤では8月1日からの5日間で1,400ミリ近い記録的な降水量となりました。台風による大雨は、台風に伴って南海上から非常に湿った空気が次々に流れ込むことによつて発生します。したがって、台風本体の雨ではなくても、台風の周辺に沿って流れ込んでくる湿った空気によつてこれまでもたびたび大雨が降っています。



H26.8.3台風12号 吉野川(薬師橋より)

台風およびその周辺では反時計回りに風が吹いているため、特に台風が高知県より西を北上する場合に、この周辺の風が南寄りの風となって大雨のもととなる水蒸気を大量に送り込みます。南海上に台風がある時には、台風の進路予報図を見て、九州あるいはその西の海上を北上するような時には、あらかじめ大雨に備えてください。

台風への備え

台風への備えの第歩は気象台からの気象情報や町役場などから伝えられる最新の情報を入手することです。そして、これらの情報は伝えられるのを待つので

はなく、自分から積極的に入手して防災対応に活かすという姿勢が必要です。



H26.8.3台風12号 穴内川(役場より)

台風に限らず気象災害は普段生活している『日常』ではなく、『非日常』の世界で起こるものです。大豊町の皆さんはどのような場所でもどのような災害が発生するおそれがあるのか、良く承知していることでしょうか。また、日ごろから雨に対する経験も積んでいます。

台風への備えは、そうした経験から得た貴重な知識と情報とを組み合わせ、いざという時に躊躇することなく防災のための行動に移すことです。避難場所や避難ルートを確認する、避難が容易でないひとり暮らしの高齢者への対応など、普段からの備えに加えて、台風情報などに注意を払い、災害への備えを怠らないことです。現在町役場などを中心に進められている防災のタイムラインも現象の推移に合わせて、関係の機関、部署が一体となって最適なタイミングで防災活動を実施していくためのものです。台風への備えは既に豊富に用意されています。あとはどのタイミングで『非日常』のモードに切り替えて防災行動に移るかということです。災害を確実に回避することができるのは適切な防災行動だけであるということこそを常に頭の片隅に置いておきたいものです。

「大豊町民防災塾」に関する問い合わせ先

総務課庶務班

☎ 072-0450